

誰1人取り残さない！

渡辺若狭町長の

SDGsなまちづくり

世界に誇れる素晴らしい自然と歴史あるまち

福井県の南西部にある若狭町は、人口約1万3500人。平成17年3月に三方郡三方町と遠敷郡上中町が合併し、三方上中郡若狭町が誕生した。若狭湾国定公園の中心部にあって、国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約に登録された「三方五湖」、全国名水百選「瓜割の滝」、近畿一美しい川とされる1級河川「北川」など水資源が豊富な町だ。この地の歴史は1万年

以上昔の縄文時代にまでさかのぼり、「縄文遺跡」や「古墳」が数多く点在。国道303号は、かつて日本海と畿内を結ぶ「若狭街道」として多くの物や文化が行き交い、街道に沿って栄えた宿場町「熊川宿」は国の重要伝統的建造物群に選定されている。また、福井梅発祥の地としても知られる。若狭の自然と環境を守ることは、唯一この町の未来を託された町民だけに果たせる使命である。「自然を愛し、緑を育て、すべてのものとともに歩み続ける」と若狭町環境

町民みんなで力を合わせてまちづくり。キーワードは「SDGs」。町制20周年を迎える節目の年に、渡辺町長は新しい時代の若狭町を町民と一緒に形作っていききたいと意を新たにしている。



宣言を平成18年3月制定する。令和3年の春、世界に誇れる素晴らしい自然と歴史ある

若狭町の首長に、県内自治体のトップでは最も若い渡辺英朗氏が就任した。当時40歳の渡辺町長は「町民と一つになって暮らしやすい町づくりを進める」をモットーに、町民の視点を大切にしながらスピード感をもった判断でまちづくりに邁進。1期目、最終年度も残すところ半年となった。さらなる賑わいづくりに2大観光拠点整備
就任当初はコロナ対策に全力を注ぎながらも、北陸新幹線開業を見据えたまちづくり